

令和 7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

宮原中学校区 校番12 呉市立宮原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	○子どもが「分かる」「できる」授業に改善する。 責	○話型を提示したことにより、自信をもって表現できるようになり、意識や意欲が高まった。 ○実際にサークルトークの授業を見ることで、イメージがもちやすくなった。 ○学年が進むにつれ、内容の理解の難しさと積み残しが増えていったため、単元テストの平均点が国語・算数ともに下がった。 ○算数科の知識・技能において、特に支援の必要な学年を対象に、九九の習熟等に学校全体で関わり、達成に向けて取り組んだことにより、意欲が高まった。	○話型を意識した指導に継続して取り組み、表現の力を伸ばしていく。 ○サークルトークの流れをもとに、様々な学習活動で話し合う場を取り入れていく。 ○ICT機器を効果的に活用する。(練習問題のアプリ等) ○算数科の授業の終わりに、練習問題を解く時間を確保し、習熟を図る。また、理解が難しい児童への手立てを意図的にできるように、教材研究を継続して行う。
**	児童に自己指導力の育成	○誰もが安心・安全な環境で学べる学校風土の醸成 責 ○児童に生活のスタイルを定着させる。 ○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない。	○宮原子どもサミットで企画した「みんな創ろう学校の輪」をテーマに、各委員会が実施した取組により、学級内だけではなく、学校全体へとあたたかい人間関係の輪が広がっていった。また、2学期の生活目標を「人のよいところをみつけよう」に設定し、各学級でよいところみつけ等の取組を行ったことで、児童の自己有用感が向上に繋がったと考える。 ○生徒指導交流を行う等、いじめの未然防止に努め、小さな事案を見逃すことなく、複数の教員で対応した。 ○再度、2学期の生活目標を「自分から先にあいさつをしよう」に設定したことで、自分からあいさつをする児童が増えた。 ○プレハブトイレのスリッパの枠を設置したことで、揃えようとする意識が高まった。 ○高学年の声かけ等により、さしすせそ掃除を徹底できている児童が多い。 ○避難訓練の事前・事後指導の徹底や、定期的な携帯マニュアルの確認、組織的な長期休暇前の声かけ等により、意識の向上を図ることができている。	○引き続き、学級の中でよいところみつけ等の取り組みを継続する。 ○校内持久走記録会や、業間体育の際に、他学年のがんばりを見合う場を設定し評価しあうことで、更なる自己有用感の向上を図っていく。 ○いじめの未然防止に努め、必要に応じて複数の教員で対応するとともに、保護者連携も密に行っていく。 ○あいさつやくつそろえ、そうじができている児童への肯定的評価を継続して行う。 ○5年生へ縦割り掃除のスムーズな引継ぎができるように、計画的に取り組んでいく。 ○長期休暇後の評価とともに、「自分の命は自分で守る」を合言葉に、様々な場面で呼びかけていく。
*	児童の基本的生活習慣の定着と体力の向上	○基本的生活習慣を定着させる。 ○体力を向上させる。	○参観日やノーマディア週間での取組により、メディアの利用状況について改善はみられたが、引き続き課題は残っている。家庭での過ごし方が重要になるので、すぐに改善するのが難しい状況である。また、メディアの長時間の利用が遅寝に繋がっている。 ○50メートル走やソフトボール投げの数値は向上したが、シャトルランには課題が見られる。シャトルランは各学年で実施している時よりも、全校やペア学年で実施している時の方が、児童が意欲的に取り組んでいる実態がある。	○3回目のにこにこ健康カードの取組の際に、児童にこれまでの取組の結果を振り返らせ、生活習慣やメディアの利用状況の改善に向けて意識を高めていく。 ○3学期も、3分間走や全校シャトルランを継続する。また、校内持久走記録会や体力づくりタイムの際に、他学年で見合う場を設定するとともに、計測の際はペア学年で実施し、児童の目標達成への意識の向上を図る。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○働きやすい職場環境を実現する。	○日課・時程において、分掌会や企画委員会がある月曜日を水曜時程にし、放課後に行う会議の時間を確保したことで、余白の時間が生まれ児童と向き合う時間を以前より確保することができた。 ○ICTの効果的活用については、長期休業中に研究主任やICTリーダーによる研修を組むことで、全教職員で進めることができている。	○働き方改革は学校の安定があつてこそ。挨拶、靴そろえ、全教職員による縦割り掃除指導等、当たり前のことを全職員が大切に、ベクトルを揃えて指導をしていくことで生徒指導や保護者対応などの業務を減少させ児童と向き合う時間や心のゆとりを生み出していく。 ○今後も計画的な業務への取組を進め、ICT等を活用し、タイムマネジメントの意識を高めていく。